

2011 連合徳島

ボランティア・サポートチーム 養成講座（第11期生報告集）



日本労働組合総連合会徳島県連合会

第11期連合徳島「ボランティア養成講座」修了に寄せて



日本労働組合総連合会徳島県連合会
会長 河村 和 男

第11期「連合徳島ボランティア・サポートチーム養成講座」修了に際して、貴重な休日を返上して熱心に受講をいただき、又運営等にもご協力をいただいたことに、敬意と感謝を申し上げます。

この「連合徳島ボランティア・サポートチーム養成講座」は、労働組合の果たす社会的役割として、地域の一員であることの自覚を促し、災害時のリーダー育成と組合員のボランティア意識の向上、労働組合としてのネットワークを行かした地域貢献、地域住民とのふれあいの中から共生と協働を確立するための事業として発足し、今年で12年目を迎え、ボランティア・サポートチームへの登録も150人を超える成果を上げてきています。

昨年3月11日に発生した東日本大震災では、多くの人命が失われると共に、現在もなお避難生活を強いられている方々が大勢います。また徳島においても、昭和南海地震から60年あまりが過ぎ、記憶も薄れる一方で、今後30年以内には50%を超える確率で、地震が発生することが予想されます。災害予防や災害発生時の対策などの必要性とともに、私たちを含む地域住民の日頃の心構えを学習したり、日頃から、避難や防災訓練などを行っていることが災害時に大きく人命を始めとする地域の安全を左右すると言われてしています。

火山国であり、地殻変動の上にある日本において、どこかで、有感無感の地震が発生している現状を見れば、決して他人事ではありません。

養成講座では、様々な取り組みの報告や体験談を聞かせていただき、実際の救急措置の講習や体験、避難や防災に関わる図上訓練、などを通じて、防災意識の高揚と災害時の心構えの体得など様々な経験の中で、「参加して良かった」「是非何かの形で役立てたい」などの評価をいただいています。

連合徳島は、引き続き「ボランティア・サポートチーム」による人材育成と防災協力体制の確立について、市民参加と市民との協働で、一層の充実を図ってまいります。

引き続き、ご指導とご協力をいただきますようお願い申し上げますとともに、ご協力いただきました関係諸団体の皆様に感謝を申し上げ、あいさつとします。ありがとうございました。

養成講座の開催にあたって

連合徳島ボランティア・サポートチーム
第11期養成講座運営委員会 運営委員長 藤本 恭士

第11期ボランティア・サポートチーム養成講座は、6月18日から12月17日の間、講義や実践体験など全6講座を開催し、多くの防災知識の習得と救急救命等の技術の向上を図ることができました。休日開催にもかかわらず、熱心にご参加くださいました受講生の皆様や運営にご尽力いただきました連合徳島及び関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

近年、東日本大震災をはじめ日本のいたる所で洪水、地震、津波などの大規模自然災害が発生し、多くの尊い命と財産が失われています。

私たちの住む徳島県も決して例外ではなく、南海地震は20年以内に発生する可能性もあるとされています。そして、この地震は、M8.4規模を想定する研究者も多く、この場合、県南部では震度5～6の揺れと、10分以内に津波が襲うことが予想されています。

自然災害をコントロールすることは今の科学では不可能だと思いますが、大規模災害が発生した場合に万全に備え、被害を少なくすることは可能です。

私たち連合徳島ボランティア・サポートチームは、今後、発生が予想される地震等の大規模自然災害に対して、自分自身や家族を守ることはもとより、地域や職場等において公的な組織や被災者の方々と連携し、避難や救出・救命などの災害救助活動に従事することで、被害の軽減と拡大防止をはかることをめざしています。そのためにも、さらなる知識と技術の向上をめざし一人でも多くの方に「ボランティア・サポートチーム養成講座」にご参加いただきますようお願いいたします。

なお、本年開催される第12期ボランティア・サポートチーム養成講座から運営委員長を退任し、新たに連合徳島副事務局長を歴任された、吉田耕造さんに運営委員長をお願いすることになりました。長年、ご指導・ご協力をいただきました関係者の皆様方に心から感謝とお礼を申し上げますとともに、運営委員長退任後も引き続き、ボランティア・サポートチーム養成講座に参加していくことをお誓いし、ご挨拶とさせていただきます。

第11期ボランティア・サポートチーム養成講座修了者名簿

名 前	構 成 組 織 等	名 前	構 成 組 織 等
赤 松 邦 博	連合徳島	篠 原 正 勝	徳島県立中央病院
旭 トモ子	徳島県中央病院	杉 本 章	全農林
井 内 佳 代	徳島県立中央病院	住 友 克 己	NTTマーケティングアクト東四国116センター
石 本 晃 士	徳島県東部県土整備局吉野川	田 北 光 広	パルテック労働組合
井 出 典 子	NTTマーケティングアクト東四国116センター	多 田 嘉 文	JP労組
犬 伏 雄 人	全農林	谷 脇 日出正	徳島森林管理署
井 端 祥 仁	パルテック労働組合	友 田 哲 也	東部県税局吉野川庁舎
井 元 浩 二	NTTマーケティングアクト東四国116センター	中 川 智 史	徳島県職員労働組合
岡 川 真紀子	徳島県職員労働組合	中ノ内 真 紀	NTTマーケティングアクト東四国116センター
奥 野 祐 崇	鳴門藍住農業支援センター	野 村 一 弘	全農林
奥 野 理 恵	鳴門藍住農業支援センター	原 崎 健 児	中央ライフサポートセンター
小 倉 涼 子	NTTマーケティングアクト東四国116センター	板 東 喜代子	連合徳島
金 子 眞由美	県病院局労組	傳 麗	連合徳島
加 村 祐 志	徳島市議会議員	藤 本 恭 士	全農林・兵庫農政事務所
川 越 敏 良	全労済徳島県本部	藤 原 有 城	連合徳島中央地域協議会
倉 敷 泰 子	NTTマーケティングアクト東四国	松 岡 嘉 征	連合徳島
黒 田 敦 子	NTTマーケティングアクト東四国116センター	峰 行 一 夫	JP労組
駒 形 佳 子	NTTマーケティングアクト東四国116センター	宮 城 英 子	NTTマーケティングアクト東四国116センター
後 藤 和 昭	徳島森林管理署	八 木 由利子	県病院局OB
斉 藤 博 之	徳島県立中央病院	山 下 健 一	徳島学院
佐 藤 泰 弘	徳島市農協川内支所 東部事務所	山 下 直 樹	(株)大真空 徳島事業所
庄 野 昌 彦	徳島県議会議員	吉 田 勝 司	徳島県職員労働組合

大規模自然災害、連合徳島の果たす役割

兵庫県南部地震、鳥取県西部地震、東日本大震災など、改めて自然の恐ろしさを痛感させる災害が発生しています。

そしてこの一連の地震は、次の南海地震の前触れに相当する内陸地震であり、20年以内に南海地震が発生する可能性もあるとされています。

そして、この南海地震はM8.4規模を想定する研究者も多く、この場合、県南部では震度5～6の揺れが予想され、その上、10分以内に津波が襲う。とされています。

こうした状況をふまえ、徳島県に大規模災害発生した場合を想定する場合、連合徳島の果たす役割は、何か。

※ 構成組織の事業所内の自然災害発生時に備えて取り組むべきマニュアルの提示。

※ 自治体への政策制度要求。

※ 連合徳島自らがおこなう防災対策とボランティア活動の推進。
などがあげられます。

特に、3点目の連合徳島自らがおこなう防災対策とボランティア活動を推進するために、緊急時における連合徳島災害対策本部を設置し、ボランティア救援隊を組織する必要があります。

災害対策本部は連合会長を対策本部長とし、ボランティアの受け入れや組合員の安否確認、情報の収集・提供、など各地協・構成組織と連携しながら、救援センターとしての役割を持つ必要があります。

ボランティア救援隊は、そのリーダーとなるべき人を養成するため、組合員を中心に広く市民から募集し、ボランティア・サポートチームとして日常的に実践的な教育訓練をおこなう必要があります。

連合徳島ボランティア・サポートチーム運営要綱

趣旨

連合徳島ボランティア・サポートチームは、今後発生が予想される大規模自然災害に対して連合徳島構成組織、連合徳島各地域協議会、行政と連携し災害救助活動に従事することで、被害の軽減と拡大防止をはかることにあります。

また、国内で発生する大規模災害に際しても、一定の条件が整う場合は、連合徳島の派遣決定により、連合徳島ボランティア・サポートチームを派遣します。

上記の災害救援活動を効率的におこなうために、参加者に教育訓練をおこないます。

名称

「連合徳島ボランティア・サポートチーム」とします。

登録

参加登録を希望する方は、連合徳島に登録されます。

脱退

次の場合は登録を取り消します。

- ① 本人の希望により取り消すとき
- ② 対象者の条件に合わなくなったとき

派遣

徳島における災害発生時のサポートチームの派遣は、連合徳島災害対策本部の設置と同時に派遣出動体制を確立します。

国内で発生する大規模災害に際しても、一定の条件が整う場合は、連合徳島の派遣決定により、派遣要請がおこなわれます。

活動

サポートチームの活動内容は、教育訓練により会得した対応能力に応じた支援活動とします。

徳島における災害時の活動は、支援ボランティアの受け入れや調整、各種の生活支援活動とします。

国内での災害時の活動は、地方連合会や行政と連携し、支援をおこなうこととします。

教育・訓練

登録メンバーは、知識と技術向上のため、別に定めるカリキュラムに従い教育・訓練をけることとします。

保険

登録メンバーは、「ボランティア保険」に加入することとします。

事務局

連合徳島ボランティア・サポートチームの事務局は次の場所に設置します。

〒770-0942

徳島市昭和町3丁目35-1 徳島県労働福祉会館内

日本労働組合総連合会徳島連合会

TEL 088-655-4105 FAX 088-655-4113

E-MAIL

info@tokushima.jtuc-rengo.jp

第11期（2011年）ボランティア・サポートチーム養成講座カリキュラム

	開催日		講座内容	講師等	場所
1	6月18日	(土)	開講式・オリエンテーリング、 一般救命講習（心肺蘇生法、AED）	連合徳島 徳島市東消防署	徳島市東消防署
2	7月9日	(土)	実践体験・救急法・担架搬送 ロープワーク・止血法等	徳島市東消防署	徳島市東消防署
3	7月30日	(土)	野外活動 木工教室・植林等	森林管理署	美馬市木屋平 中尾山「平成荘」
	7月31日	(日)	「連合の森」親子サマーキャンプ	森林労連等	
4	8月27日	(土)	よくわかる食品安全 よくわかる食品のトレーサビリティ	徳島農政事務所	労働福祉会館
5	9月17日	(土)	防災体験	県防災センター	徳島県立防災 センター（北島町）
6	12月17日	(土)	東日本大震災ボランティア派遣報告 修了式	連合徳島	自治労プラザ

第11期（2011年）ボランティア・サポートチーム養成講座報告

■ 6月18日（土）開講式・第1講座「一般救命講習」

開講式・第1講座は、徳島市東消防署で開催し、35人が参加。連合徳島・森本副会長から養成講座の意義と激励を受けた後、一般救命講習（心肺蘇生法、AED等）を受けた。東消防署係員から救命についての説明後、訓練用の人形を使っての人工呼吸・蘇生訓練を行った。また、AED（自動体外式除細動器）の使用についてもわかりやすく指導を受けた。講習終了後、参加者に徳島市消防署から「普通救命講習修了証」が交付された。



■ 7月9日（土）第2講座「実践体験」

徳島市東消防署救助隊員の指導のもと31人が参加。日常生活でも利用でき、役立つ三角巾を使っての止血法やロープワークを訓練。もやい結び、まき結びなどロープに惑わされながらも、隊員の親切な指導と仲間同士で教え合いながら何とか体得。毛布を使った担架搬送訓練も学習した。



■7月30日（土）～31日（日）第3講座「連合の森」

地球にやさしいエコ・ユニオンをめざす連合徳島は、7月30日（土）～31日（日）の2日間、美馬市木屋平の中尾山・平成荘で、「連合の森・親子サマーキャンプ」を開き、102人（大人71人・子ども31人）が参加した。

開会オリエンテーリングは体育館で行われ、主催者を代表して連合徳島・藤岡副会長のあいさつと、徳島森林管理署・三谷署長からあいさつを受けた。

その後、昼のイベントとして、写真ボードを作成する「木工教室」と2011年は国際森林年ということで森林のことを考えるきっかけとして、「遊歩道ウォーキング」を同時並行で行った。

「木工教室」は子どもを中心に参加し、まず最初に徳島森林管理署の職員から森林についてプロジェクターを使った説明を受けた後、杉の間伐材にどんぐりや木の枝、石などをボンドで付けたり、自分の名前や絵を描いたりと親子で熱中し、それぞれオリジナルの写真ボードを完成させた。

「遊歩道ウォーキング」では山道に悪戦苦闘しながらも、貞光川の源流を観察したりと自然を満喫した。

17時からの夕食バーベキューは8班に分かれて炭を熾し、昼間に心地よい汗をかいたこともあり、子どもたちの食欲も旺盛で肉・野菜・ソーセージ・おにぎり・スイカ等を食べて、大人たちもアルコールを飲みながら交流を深めた。

2日目は朝食後に2006年に美馬市の協力のもとできた「連合の森」へ車で移動。植林の仕方についてレクチャーを受けた後、これまで植林してきた木の成長を確認し、防護ネットの修繕を行い、徳島森林管理署、県林務職員（県職労）の指導のもと、家族・グループ毎に50本の苗木（コナラ）を植林するとともに、鹿対策の防護ネットも取り付け、大きく成長することを願って名札を埋め込んだ。

2日間とも好天に恵まれ、徳島森林管理署をはじめ林野労組、県林務職員（県職労）をはじめ、多くの参加者と地元美馬市の協力をいただき、標高1,050メートルのすばらしい環境のもとけが人もなく親子サマーキャンプを無事終了することができた。



■ 8月27日（土）第4講座「よく分かる食品安全・よく分かる食品のトレーサビリティ」



第4講座は、県労働福祉会館で中国四国農政局徳島農政事務所の職員を招き、食品をテーマに講座を行い、30人が参加した。

講座では、食品の安全基準について説明を受けるとともに、問題が発生した場合などに、流通ルートを手早く特定するため、記録を作成・保存すること、産地情報を取引先や消費者に伝達することを義務づける、トレーサビリティ制度について学習した。

■ 9月17日（土）第5講座「防災体験」

第5講座は、北島町にある県防災センターで開催し、22人が参加した。指導員の案内で防災ガイダンス、地震体験（阪神・淡路大震災の揺れを体験）、消火体験（消火器の使い方）、煙体験（低い姿勢で移動）、風体験（風速30メートル）を行った。続いて、迫り来る南海地震に備えて、東日本大震災の被害状況も交えながら、防災対策について説明を受けた。



■ 12月17日（土）第6講座「東日本大震災ボランティア派遣報告」・修了式

「大規模自然災害・連合徳島の果たす役割」と「連合徳島ボランティア・サポートチーム運営要綱」に基づいて、6月18日から始まったボランティア・サポートチーム養成講座も第11期を迎え、各構成組織から55人の参加を集約。

これまで、一般救命講習・実践体験、食品安全、防災体験など5講座を開催。

最終講座となる第6講座は、10月中旬に身体障害者授産施設・眉山園主催の体育祭に参加し、障害者介助等の講習を行うこととしていたが、眉山園との日程調整がつかず、中止となったため講座内容を変更し、昨年3月11日に発生した東日本大震災をテーマに行うこととした。

これまで、連合本部は東日本大震災の発生を受けて、昨年3月14日に災害対策救援本部を設置。被災各地の状況把握を行うとともに、構成組織・地方連合会に対して、被災地への物資支援と救援カンパの取り組みも要請、加えて被災地へのボランティア派遣も行うことを決定し、これまで、のべ3万4千人を超えるボランティア派遣を行ってきた。

連合徳島も連合本部の要請を受け、街頭カンパ活動の実施や、被災地支援物販の販売、そして被災地支援としてボランティア派遣も実施。ボランティア派遣では、岩手県、福島県を中心にのべ7人の派遣を行い、泥だしや、がれきの撤去など、人力でなければ対応できない活動を展開してきた。

以上の様な経過から、12月17日、自治労プラザで、ボランティア・サポートチーム養成講座の最終講座を開催し、実際に現地で活動してきた5人の方（連合徳島・齋藤事務局長、連合徳島中央地協・原崎事務局長、連合徳島・赤松副事務局長、連合徳島中央地協・森本議長、庄野県議会議員）を招き、活動報告を受けるとともに、今後発生が予想される東海・東南海・南海地震に向けての対応や課題、ボランティアにおける注意事項等について学習を行った。

修了式では、連合徳島・藤岡会長代行が「ボランティア・サポートチーム養成講座で学んだことを今後の活動に活かしてほしい。次回からは実践講座も取り入れ充実したカリキュラムとしていきたい」とあいさつし総括した。



第 1 1 期連合徳島ボランティア・サポートチームの記録
〒 7 7 0 - 0 9 4 2

徳島市昭和町 3 丁目 3 5 - 1 徳島県労働福祉会館 6 F

日本労働組合総連合会徳島連合会

t e l 0 8 8 - 6 5 5 - 4 1 0 5

f a x 0 8 8 - 6 5 5 - 4 1 1 3

e-mail info@tokushima.jtuc-rengo.jp